

# bxcjkvert パッケージ

八登崇之 (Takayuki YATO; aka. “ZR”)

v0.5a [2026/03/31]

## 概要

本パッケージは CJKvert パッケージの改造版であり、縦組と横組の混在が普通に起こりうる日本語組版にパッケージの機能を適合させたものである。

## 目次

<b>1</b>	<b>パッケージ読込</b>	<b>1</b>
1.1	フォントリセットに関する設定 . . . . .	1
1.2	ベースライン伸長の補正に関する設定 . . . . .	2
1.3	書字方向の初期値に関する設定 . . . . .	2

## 1 パッケージ読込

`\usepackage[オプション,...]{bxcjkvert}`

本パッケージは CJKvert パッケージを内部で読み込む。  
利用可能なオプションを以下で挙げる。

### 1.1 フォントリセットに関する設定

CJKvert パッケージは、書字方向変更の命令 (`\CJKhorz` および `\CJKvert`) の呼出の際に、`\normalfont` を実行して現在フォントをリセットする。この挙動は異なる書字方向を混在させる場合には特に不便である。従って、`bxcjkvert` は既定ではこの挙動を抑止している。ただし `resetfont` オプションによりこの挙動は調整可能である。

- `resetfont=true` : 書字方向命令が現在フォントをリセット (`\normalfont`) する。  
※本来の CJKvert の挙動。
- `resetfont=false` (既定) : 書字方向命令が現在フォントを変更しない。

## 1.2 ベースライン伸長の補正に関する設定

CJKvert は書字方向変更時に `\baselinestretch` の値に対する補正を行う。具体的には、`\CJKvert` が有効な間はベースライン伸長値が `\CJKbaselinestretch` 倍<sup>\*1</sup>に増大する。ところが、日本語組版を考慮する限り、ベースライン伸長値を変えるべき理由はどこにもない。従って、`bxcjkvert` はこの機能を無効化している。ただし `usebaselinestretch` オプションによりこの挙動は調整可能である。

- `usebaselinestretch=true` : `usebaselinestretch` オプション付きの CJKvert パッケージと同じ。すなわち、`\CJKvert` 実行時にはベースライン伸長値を `\CJKbaselinestretch` 倍にし、`\CJKhorz` 実行時にはベースライン伸長値を復元する。<sup>\*2</sup>
- `usebaselinestretch=false` : `usebaselinestretch` オプション無しの CJKvert パッケージと同じ。すなわち、`\CJKvert` 実行時にはベースライン伸長値を `\CJKbaselinestretch` の値に設定し、`\CJKhorz` 実行時にはベースライン伸長値を 1 に設定する。(ユーザによるベースライン伸長値の設定は無視される。)
- `usebaselinestretch=retain` (既定) : ベースライン伸長値に対する変更を一切行わない。

※ CJKvert が予め `usebaselinestretch` オプション付きで読み込まれていた場合は、本パッケージの `usebaselinestretch` の既定値は (retain ではなく) `true` になる。

## 1.3 書字方向の初期値に関する設定

CJKvert では初期 (文書開始時) の書字方向は縦組と定められている。本パッケージでは初期の書字方向をユーザが選択することができる。

- `main=true` : 書字方向の初期値を縦組とする。CJKvert ではこれが既定である。
- `main=false` : 書字方向の初期値を横組とする。
- `main=retain` (既定) : 書字方向の初期値を何も指定しない。この場合、プレアンブルで `\CJKvert` や `\CJKhorz` を実行することで書字方向の初期値を決めることができる。

---

<sup>\*1</sup> `\CJKbaselinestretch` の既定値は 1.3 である。

<sup>\*2</sup> ただし、この場合、ベースライン伸長値は「CJKvert パッケージ読込時に保持されていた値」に戻されることに注意。